

手をつないで巨木を囲む。何人分の大きさかな

森は動植物の宝庫

高校生がフィールドワーク

美山の京都大芦生研究林——

森の住民、リスが愛らしい仕草で生徒たちを迎える



府立久御山高・普通科(理数系)の1年生30人が9日、美山町の京都大芦生研究林で、フィールドワーク実習を体験した。わき出る水の音に耳を澄まし、枯れ葉を踏み分けて進む秋の森で、生徒らはたくさんの生命が織り成すドラマにふれた。

実習は総合学習の時間を使って行われ、生徒たちは動植物の専門家や大学院生の説明を聞きながら、図鑑とカメラを手に、標高765分の杉尾峠まで約4キロの山道を歩いた。途中、イノシシの足跡や木に刻まれたクマのつめ跡を発見、枝の上を跳ねるように走るリスやカエルを丸飲みしているヘビの姿にも出会った。

文・林由紀子
写真・懸尾公治

山を下りた生徒たちは、環境に配慮することの大切さに気づいたり、植物の種類の多さや動物の生態について関心を深めていた。



大きな木の根元にできたクマの巣穴に入る男子生徒たち



湿地帯での自然観察では、足元に気を付けなければならない



採取した植物は、その場で図鑑を使って調べる

